

# 七月...きもの事始め...

梅雨が明けると、本格的な夏がや、てきます。強い日差しが照りつけ、「今年も夏が来たよあ」と実感するものこの頃。店頭の色とりどり、すっかり夏の風物詩に。きものは単衣の中でも、特別に暑い7月と8月は薄物といい、素材が涼しいものに変わります。日傘を差して颯爽と歩きましょう。

## ひとえの時期は短いからこそ、季節感を大切に

### 初夏と初秋できものを着分ける

「季節感のある装い」月々の色や柄、装いの雰囲気は花の色や、季節とともに変化する自然の姿に合わせてものにするといふでしょう。

- 四月... 桜色
- 五月... 若葉や藤の花にちなんで色
- 六月... カキツバタの紫
- 七月... 藍色や水浅葱
- 八月... 濃い藍
- 九月... 萩の色

半衿は、初夏の場合、TPOやきものに合わせて絹塩瀬や紹ちりめん。初秋は、衿の季節に向かうことを意識して夏ものは避け、和装小物も同様にして、色合いや素材を選みます。

ひとえの時期の代表的なおしゃれ着、「紗合わせ」と「生絹」は一般的には

初夏・初秋の両方に用います。風合いに合わせて、紗合わせは初夏に、生絹は初秋に用いる方もいます。紗合わせの紗は夏生地なので、夏に向かう時期に着る。反対に生絹は涼しく、深々と素材で、温か味も感じられる物なので、秋に向かう九月に。初夏と初秋では季節はちがう、花も葉も違います。それに従って色も素材も変わりますから、自然の移ろいに合わせて着分けましょう。

### 用途や季候に応じて使い分ける

ひとえにはどんな帯を合わせればよいか、もし悩みどころですが、裏地のよいひとえ帯のほか、夏に向かう時季は絹や紗などの夏帯、秋口には細かい糸で薄く、軽く織った衿の帯を。

紗や蠶などのひとえ帯はくしゃとして形が取りにくいので、上等な夏帯用色芯で裏打ちすると色映りも良く、きれいに結べます。

### 端境期のきもの選びは

温暖化の影響で、季節と実際の気温が異なる日が増えましたが、こんなときのきもの選びにはTPOを優先させます。プライベートや気のおけなしい相手の場合には実際の気温に合わせて、冠婚葬祭や改まり、下着、しきたりを大切にする場合、目上の方にお会いするときなどは、しきたりに従ったものを着用する。その場合は肌着や襦袢を薄物にし、福除けの生地を変えて体温調節をしましょう。

ひとえは、衿に比べ、時季が短いからこそ、より季節感を大切に、素敵に着こないといいですね。

## 夏のきもの生地

### ~ Part 1 ~

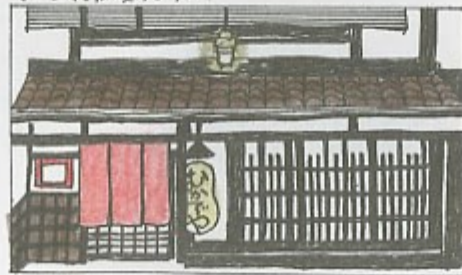
- 堅絹(たてろ)**... 染物・初夏、初秋、盛夏に着用・縦に絹目があるもの。堅絹はかつて薄物の前後に着用とされていましたが、近年は夏中着用しています。
- ひとえ向きの織物**... 染め、織り・初夏、初秋に着用。ひとえの細や後染の訪問着など、ひとえのきもの染め下地とよぶ織物。衿のものよりもやや薄手の品もあります。
- ひとえ向きの縮緬**... 染物・初夏、初秋に着用。訪問着や小紋などに、ひとえの時期のきもの染め下地に、布面に織のシボをほすほど涼しく着る工夫がなされています。
- 絹**... 染物・盛夏に着用。盛夏に最もよく用いられる生地です。横段にからみ織で表現される絹目は、間隔が狭いものから三本絹、五本絹、七本絹、九本絹とがあり、狭いほど透けます。
- 絹縮緬**... 染物・初夏、初秋、盛夏に着用。絹縮緬は、絹目を通した縮緬地。本来はひとえの時期向きですが、盛夏にも着る傾向が見られます。
- 夏御召**... 織物・初夏、初秋に着用。衿の時期の御召エリや薄手に織られたのが夏御召です。透け感が少ないので、ひとえの時期の着尺やコート地などに。
- 糸少細**... 染物・織物・盛夏に着用。玉糸使いの平織で透け感のある盛夏向きの絹織物。「絹色蒸」などの商品名でも売られています。細織物や後染めのきものなどに使用。
- 糸少**... 染物・織物・盛夏に着用。絹と並ぶ盛夏の代表的な生地。からみ織で空を表現しています。透け感が強く、地紋があるものは紋紗とよばれます。
- 本塩沢**... 織物・初夏、初秋に着用。新鴻巣で織られる精緻な小緋の絹織物です。細かなシボがあり、さらりとした肌触りで、ひとえの時期に好まれます。

ふみこのきものDE まっこと

百足屋・おかや・1990年開業 MUKADEYA KUROCHIKU SERVICE OPERATION DIVISION

〒604-8214 京都市中京区新町錦小路110百足屋町381 TEL 075-256-7039

築160年の町家、培われてきた歴史と文化。明治中期の骨格を生かし復元した本格的な京町屋。支那を入ると「うなぎの養殖」といわれるように、奥行きが深く、吹き抜けには、通り庭に井戸やおくどさんが当時の雰囲気のまま残されています。テーブル席は18席、中庭を眺めながらの和座敷、アンティークに囲まれた敷中。2F席は最大30名様様の宴会としてもご利用頂けます。



Menu	
昼 11:00~14:00 (L)	
百足屋弁当	3240円
百足屋箱膳	5400円
夜 17:00~21:00 (L)	
新町	5400円
錦	7560円
室町	10,800円
水曜 定休日	
※祇園祭の期間は無休で営業致します。	

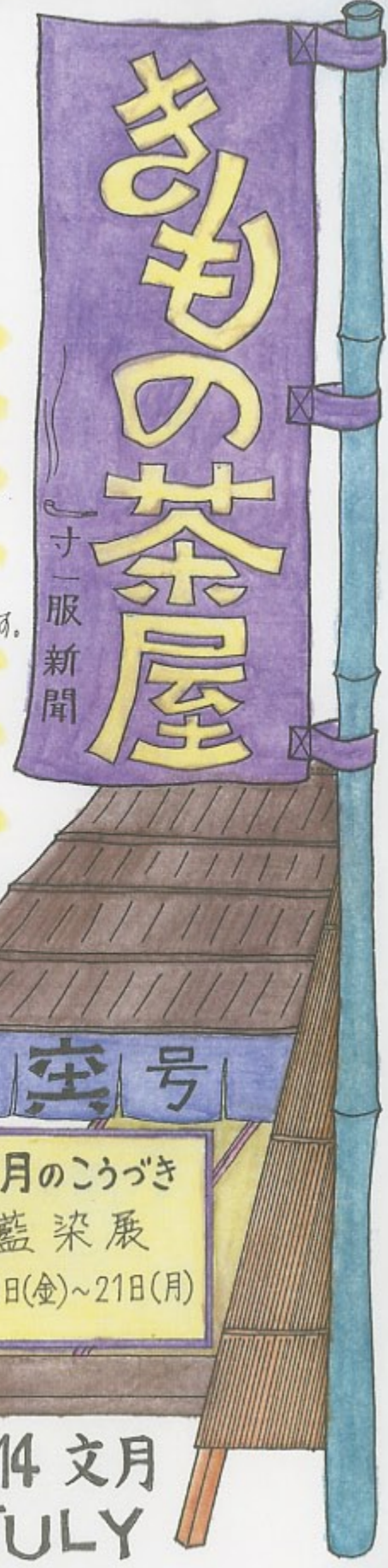
## 祇園祭

7月1日~14日に渡り行われる1100年以上も続く京都八坂神社の祭礼。八坂神社の神々はお留年。15日の宵宮祭を経て、神輿に神々の神聖を移す。7月17日の夕方に神輿は八坂神社を出発し、24日まで田楽寺町の御旅所に滞在。その間7日間、八坂神社に神々ははいりませんといわれています。



### 無言参り

神々が田楽寺町の御旅所に滞在している7日間、御旅所に「無言」で詣ると、願いが叶うといわれる。古い伝説がある。その夜から、祇園祭の舞やお囃子やお囃子さんたちの「無言参り」が始まる。



## 第空号

7月のこうづき 藍染展 18日(金)~21日(月)

2014 文月 JULY